

学校長式辞

開花のたよりこそまだ聞かれませんが、暖かい日差しに古城の門の桜の蕾も膨らみ、春の訪れを実感する季節となりました。

本日はご来賓の皆様のご臨席を賜り、また、この佳き日を迎えてお慶びの保護者の皆様のご同席を得て、入学式を挙げていきますことを、新入生とともに職員一同、厚く御礼申し上げます。

さて、只今入学を許可いたしました、全日制321名、定時制22名の新入生のみなさん、本校へのご入学、おめでとうございます。保護者の皆様、お子様の御入学心からお祝い申し上げます。

上田高校は、西暦1900年に長野県上田中学校となって以来、今年125期の新入生となる皆さんを迎えた、歴史と伝統のある高等学校です。

平成27年からは、スーパー・グローバル・ハイスクール、令和2年からは信州WWLコンソーシアムの拠点校として文部科学省の指定を受け、イノベティブなグローバルリーダーの輩出を目標に、探究的な学び、国際的な学びにより、長野県をリードする先進的な教育を行っております。

また、定時制は県内でも最大級の生徒数を擁していますが、一人一人の生徒の希望により沿う、丁寧できめ細やかな指導で東信地域に広く定評のあるところ
です。

さて、そのような本校に入学してきた新入生のみなさん、高校生活への期待で胸を膨らませていることでしょう。本日は、校歌の紹介を交えながら高校生活の心構えを二つお話ししたいと思います。

一つ目は、「己を知り、己の何たるか」を考えるということです。本校の校歌には、「我に至高の望みあり 拳世の浮花に迷わんや」という歌詞があります。

「私には高い望みがあるのだから、浮わついて外見だけ華やかな世の流行りに惑わされはしない。」ということです。高い望みを見つけるためには己とよく向き合うことが大切です。

高校時代はちょうど子どもから大人になる時期にあたります。3年生の十八歳になれば成人です。ですから、高校生活のなかで、「自分は何者でどのような使命を持っているのか」「大人になってどのように社会に貢献し、役割を果たしていくか」を考え始めてほしいと思います。

人は一人一人個性も興味関心も考え方も異なります。ですが、よりよい社会を作るためには多様な個性を生かしてともに協力していくことが大切です。それはつまり、だれにでも果たすべき役割、つまりは使命があるのだということです。自分と向き合って自分がどのような人間でどのような使命を果たしていくのか、折に触れて考えてほしいと思います。

二つ目は「挑戦」ということです。校歌には、「我に至剛の誇りあり いざ百難に試みむ」という歌詞があります。自分にはとても強く正しい誇りがある さあ、困難に挑戦しようではないか。ということです。

先日、長野県の高校生が手洗いの大切さを啓蒙する活動をカンボジアで1か月間行ったというニュースを見ました。クラウドファンディングで集めたお金でカンボジア語の絵本を作り、現地の小学校を訪れて300冊を贈呈したそうです。高校生ってすごいパワーを持っているな、と思いませんか。

挑戦とは、そのような大きな事ばかりではありません。多くの高校生にとって日常もまた挑戦です。学習に取り組むことや班活動との両立もまた挑戦です。挑戦は、どのようなことでもいいのです。自分で挑戦のテーマを決めて心を定め、周到に準備をして果敢に挑んでほしいと思います。学ぶ中で、例えば震災のボランティアに行ってみたい、とか海外研修に参加してみたいなどたくさんの興味も湧いてくるかもしれません。そのようなワクワクの種に出会ったなら、「まだ高校生だから」と二の足を踏むのではなく、ぜひ挑戦してもらいたいと思います。

3年あるいは4年の高校生活は、自らの強い意思で主体的に学び、行動し、友人と切磋琢磨して高め合い、挑戦する日々になることでしょう。その中で自分の使命は何か、この問いを時折、自分に問いかけながら、高校生活を充実させてほしいと願うばかりです。

保護者の皆様、本日はまことにおめでとうございます。

今日のお子様の様子を見て、ほんの少し前までだっこしていたのに、すっかり大きくたくましくなって、やはり高校生らしくなったと感じておられることでしょう。これからの三年間ないし四年間の生活の、今日は出発点にあたります。上田高校は全力で生徒一人一人に向きあい、サポートしてまいります。学校は常に情報をしっかり発信し、ご家庭との連携を密にして教育を進めてまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、本日入学した生徒諸君の高校生活が充実したものになるよう重ねて祈念し、合わせてご臨席の皆様へ篤く御礼申し上げ、式辞といたします。

令和六年四月五日

長野県上田高等学校長 宮下 美和